環境経営レポート

運用期間:令和4年6月1日~令和5年5月31日



発行目:令和6年2月1日



株式会社 平谷建設

環境経営方針

一 基本理念 一

(株) 平谷建設は、地域との共生を目指して取り組み、社員一人ひとりが地球環境の保全と その継承の重要性を認識し、基本方針に基づき継続的に環境保全活動を推進していきます。

一 基本方針 一

当社は、事業活動が与える環境負荷を低減するために、次の方針に基づき、環境経営活動を推進し、地球環境との調和を目指します。

- 1. 当社の事業活動にかかわる環境影響を常に認識し、積極的に環境への取り組みを行い継続的な環境負荷の低減を図ります。
- 2 当社の事業活動に関わる環境関連の法令、その他を遵守します。
- 3. 当社の事業活動に関わる環境影響のうち、下記の項目を環境管理重点テーマとして 取り組みます。
 - ①二酸化炭素の排出量(電力及び化石燃料の使用量)の削減
 - ②水資源使用量(排出量)の削減
 - ③廃棄物の削減及びリサイクルの推進
 - ④グリーン購入の推進
 - ⑤環境に配慮した施工・サービスの提供
 - ⑥清掃等社会貢献活動の推進
- 4. この環境経営方針を全従業員に周知するとともに、環境経営レポート等で社外へも公表します。

上記方針達成のために、目標を設定し、定期的に見直し環境経営システムを推進します。

制定日 平成22年 9月 27日 改訂日 令和 3年 5月 1日

株式会社 平谷建設 代表取締役 西原 正彦

事業所の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 平谷建設 代表取締役 西原 正彦

(2) 所在地

(本 社) 徳島県那賀郡那賀町大殿字川口3番地

(倉庫) 徳島県那賀郡那賀町成瀬字中郷30-1

(資材置場) 徳島県那賀郡那賀町大殿字上川端

(3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者
谷
光

(TEL) 0884-67-0121 (FAX) 0884-67-0125

(E-mail) hiraken@ca.pikara.ne.jp

(4) 事業の概要

特定建設業 (許可番号) 徳島県知事許可 (特-3)第149号

(許可業種) 土木工事業、とび・土工工事業、しゅんせつ工事業

解体工事業

(5) 事業の規模

• 売 上 高 384百万円 (※令和4年度)

• 資 本 金 2,000万円

• 従 業 員 数 28人

事務所床面積 100㎡

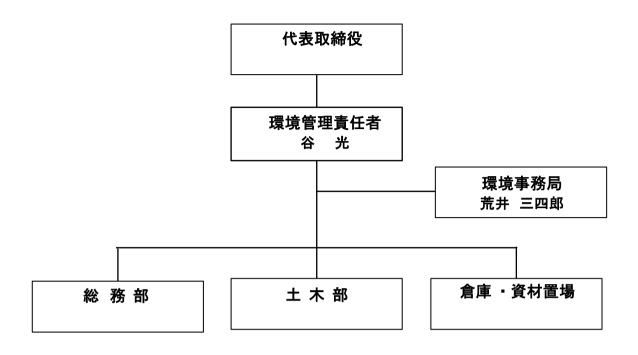
倉庫延べ床面積 600㎡

資材置場延べ床面積 600㎡

(6) 認証・登録対象範囲

全組織・全活動を対象とする。

環境経営システム組織図



職 位	役割・責任・権限					
	• 環境経営に関する統括責任					
	・環境経営システムの実施及び管理に必要な、人、設備、費用を用意					
代表取締役	• 環境管理責任者を任命					
	・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知					
	• 環境経営目標の設定を承認、環境経営レポートの承認					
	・代表者による経営における課題とチャンスの明確化					
	・代表者による全体の評価と見直しを実施					
	・環境経営システムを構築し、実施し、管理					
	・法規制等の要求事項登録簿を承認・遵守チェック					
」 環境管理責任者	• 環境経営活動実施計画書を承認・評価、指示					
保児官注負住在 	・緊急時対応手順書・緊急事態記録の承認、環境経営レポートの承認					
	・問題点処置の承認・評価、指示					
	• 環境経営活動の取組結果を代表者へ報告					
	・環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施					
	・環境経営目標・環境経営活動実施計画書原案の作成、環境経営レポートの作成					
 環境事務局	・環境経営活動実施計画の実績集計					
以	・法規制登録管理リストの作成・遵守チェック					
	• 問題点処置表の作成					
	・環境関連の外部コミュニケーションの窓口					
	・自部門のにおける環境経営システムの実施					
	・自部門における環境経営方針の周知					
部門長	・自部門の従業員に対する教育訓練の実施					
M I J IX	・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト・訓練・記録					
	・自部門に関連する環境経営目標及び環境経営活動計画の実施及び達成状況の報告					
	・自部門の問題点の発見、是正、予防措置及びその報告					
全従業員	・環境経営方針を理解と環境への取り組みの重要性を自覚					
工业未只	・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加					

環境経営目標とその実績

			平成29年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	項目	単位	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
			実績(基準値)		目標値		目標値		目標値		目標値	
	①二酸化炭素排出量	kg - CO2	4,351.7	5,329.1	4,308.3	5,275.9	4,286.7	5,249.5	4,265.3	5,223.3	4,244.0	5,197.2
	②電力使用量	kWh	3,724	3,862	3,687	3,823	3,668	3,804	3,650	3,785	3,632	3,766
事	③燃料使用量	Q	1,159.0	1,523.6	1,147.4	1,508.4	1,141.7	1,500.9	1,136.0	1,493.4	1,130.3	1,485.9
務	④水使用量	m³	41.0	47.0	40.6	46.5	40.4	46.3	40.2	46.1	40.0	45.8
所	⑤一般廃棄物排出量	t	0.161	0.141	0.159	0.140	0.159	0.139	0.158	0.138	0.157	0.138
"	⑥グリーン購入の推進	品	1品		5品.	以上	5品以上		5品以上		5品以上	
	⑦社会貢献活動	回	3回		4回.	以上	4回以上		4回以上		4回以上	
	①二酸化炭素排出量	kg - CO2	213,847.4	127,373.1	211,714.3	126,102.6	210,655.7	125,472.1	209,602.4	124,844.7	208,554.4	124,220.5
現	①-1二酸化炭素排出量/売 上高	%	0.091		1 0.090 0.090		90	0.089		0.089		
76	②電力使用量	kWh	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	③燃料使用量	Q	83,135.0	49,766.3	82,305.7	49,269.9	81,894.2	49,023.5	81,484.7	48,778.4	81,077.3	48,534.5
場	8産業廃棄物リサイクル率	%	100.0		100	100.0 100.0		0.0	100.0		100.0	
	⑨環境に配慮した施工 サービスの提供	%	100.0		100	0.0	100.0		100.0		100.0	

※購入電力のCO2排出係数 0.446(kg-CO2/kWh)

- ※ ①~⑤項目 平成29年度実績を基準値としを年間毎年0.5%ずつ、令和9年度までに計5%削減する。
- ※ ⑦項目を年間4回以上活動する。
- ※ 現場では谷水使用のため、水使用量の測定は不可能である。

■環境目標とその実績 (運用期間:令和4年6月1日~令和5年5月31日)

			令和4年度					
	項目	単位	上期	下期	上期	下期	年間	間値
			目標値		実績		目標	実績
	①二酸化炭素排出量	kg - CO2	4,244.0	5,197.2	4,703.7	5,121.9	9,441.2	9,825.6
l	②電力使用量	kWh	3,632	3,766	3,766	3,221	7,398	6,987
事	③燃料使用量	Q	1,130.3	1,485.9	1,303.3	1,556.4	2,616.2	2,859.7
務	④水使用量	m³	40.0	45.8	34.0	32.0	85.8	66.0
所	⑤一般廃棄物排出量	t	0.157	0.138	0.151	0.137	0.295	0.288
""	⑥グリーン購入の推進		5品以上		5品		5品	5品
	⑦社会貢献活動	回	4回.	以上	4回		4回	4回
	①二酸化炭素排出量	kg - CO2	208,554.4	124,220.5	146,282.6	120,243.8	332,774.9	266,526.4
現	①-1二酸化炭素排出量/売 上高	%	0.0	89	0.069		0.089	0.069
	②電力使用量	kWh	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
l	③燃料使用量	Q	81,077.3	48,534.5	57,324.4	47,309.0	129,611.8	104,633.4
場	⑧産業廃棄物リサイクル率	%	100.0		100.0		100.0	100.0
	⑨環境に配慮した施工 サービスの提供			0.0	100.0		100.0	100.0

~評 価~

事務所では、電気使用量は削減目標を達成したが燃料使用量の削減目標が達成できなかった。今後もこまめな節電やアイドリングストップなどで削減につとめる。

現場においては、今年度の売上高は対基準年比1.02倍と増加しているが、CO2排出量も対基準年比0.80倍と減少している。 その要因としては、工種で掘削工及び残土処理工が減少し、大型機械等の稼働率も減少したためである。

今後も重機使用時の燃料削減手順書を再認識するなど、目標達成のため努力していく。

主要な環境経営活動計画の内容 取組結果の評価並びに次年度の取組内容

(運用期間:令和4年6月~令和5年5月)

経営計画	達成状況	評価(結果と次年度の取組内容)
電力使用量の削減	(事務所)	事務所では、年間使用量の削減目標が達成できた。今年度も古くなったエアコンを省エネ
・省エネ設計商品の選択購入	目標: 7,398 kWh	タイプに買換えるなど節電に努めており、継
・エアコンの設定温度(冷房28℃暖房20℃)	•	続する。
・パソコンのオートオフ機能設定	達成率:106%	
	(現場)	現場では、工事箇所、内容により数値目標の
・倉庫、現場事務所の不在時電源オフ	目標: O kWh	対比は困難であるが、次年度以降もこまめな 電源オフに努める。
	実績: O kWh	电源オブに方める。
	達成率:一 %	
燃料使用量の削減	(事務所)	事務所では、わずかながら年間使用量削減の 目標達成ができなかったがアイドリングス
・アイドリングストップ等エコドライブの推	目標: 2,616.2 ℓ	トップや急発進・急加速を避けるなど削減に
進	実績: 2,859.7 ℓ	努める。
・車両の自主点検の実施	達成率:91 %	
	(現場)	掘削工及び残土処理工の工事量の減少に伴い、大型機械等の稼働率も減少したため、燃
・燃料消費の少ない建設機械等の選定	目標: 129,611.8 ℓ	N、人至機械等の稼働率も減少したため、燃 料使用量の削減は達成できた。今後も今年度
・燃料消費の少ない省工ネ重機への買替え	実績: 104,633.4 ℓ	同様、燃料削減手順の遵守や重機購入時には
・ダンプトラックによる過積載防止	達成率: 124 %	省エネタイプを選定するなど削減に努める。
上水使用量の削減	(事務所)	
・トイレ用水の節水	目標: 85.8 m3	目標達成できた。今後も継続していく、
・こまめに蛇口を閉める	実績: 66.0 m3	
京春物サロラの地岸 114/111のサゲ	達成率: 126 %	
廃棄物排出量の削減・リサイクルの推進 (・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(事務所)	日神を代山立た
(一般廃棄物)	目標: 0.295 t	目標達成出来た。
・マイボトル活動の推進・使用済み用紙・封筒等の再利用	実績: 0.286 t 達成率: 103 %	次年度も飲料容器ゴミの削減のため、マイボトル活 動は継続していく。
・使用済の用紙・到同寺の再利用	连风平・103 % 	
(産業廃棄物)	(現場)	
マニフェストによる廃棄物管理の徹底	目標: 100 %	
(二)1/(1にのの)に来物自足の)配色	実績: 100 %	目標達成出来た。次年度も継続していく。
	達成率: 100 %	
グリーン購入の推進	(事務所)	
事務用品のエコマーク商品優先購入	目標:5品	 目標達成できた。次年度も継続していく。
	実績:5品	
	達成率:100 %	
社会貢献活動の推進		
・ロードアドプト事業、その他ボランティア活動	目標:4回以上	国道の清掃事業等を行い目標達成できた。
への参加	実績:4回	次年度も継続していく。
	達成率:100 %	
環境に配慮した施工・サービスの提供	(現場)	
・現場毎に適した環境に配慮した施工	目標: 100 %	目標達成できた。
・従業員から環境改善意見の募集	実績: 100 %	次年度も担当者と十分協議し、環境に配慮
	達成率:100 %	した施工に努める。

・次(R5)年度の期間における環境経営活動計画の内容は、R4年度の内容を継続して取り組むこととする。

環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

区分	適用される法規制	適用される施設等
基本・一般	環境基本法 地球温暖化対策の推進に関する法律 環境配慮促進法 徳島県環境基本条例 徳島県脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例 那賀町景観条例	事務所•現場
廃棄物	グリーン購入法 廃棄物の処理及び清掃に関する法律/産業廃棄物 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律 (建設リサイクル法) 特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法) 那賀町廃棄物の処理及び清掃に関する条例	事務所・現場 現 場 現 場 事務所 事務所・現場
水質	浄化槽法	事務所•現場
大気汚染	特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律 (オフロード法) フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	現 場
騒音•振動	騒音規制法 振動規制法	現場

環境関連法規制等の遵守状況の定期評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。 また、過去3年間にわたって違反や訴訟もありませんでした。

代表者による全体評価と見直しの結果

事務所では、燃料の使用量が微増したが電気使用量が減少したため、CO2排出量の削減目標は達成できた。 継続しながら、より一層こまめな節電やアイドリングストップなど削減に努めたい。

現場においては前年、重機や運搬車両の買換えるなど取組を行ったのと、工事量の減によりCO2排出量の削減目標が達成できた。今後も燃料削減手順の順守や重機、運搬車両の省エネタイプへの買換えを検討するなど 一層削減に努めたい。

また、社会貢献活動にも積極的に参加できたが、今後さらに回数を増やし、活動範囲を広げていきたい。

環境活動・社会貢献活動のご紹介

活動内容 [尿素SCRシステム]バックホウの使用

No×を削減する[尿素SCRシステム]が搭載されていることにより、エンジンからの排出ガスは、
尿素水と混ざり合い、SCR触媒で無害な水と窒素に還元され、排出ガスの削減に貢献できた。





活動内容	高圧洗浄機による粉塵防止対策
活動詳細	工事用道路において、路面の粉塵等の舞い上がりを防止するため高圧洗浄機による散水作業を 行い周辺の環境美化に努めた。





活動内容	超低騒音油圧ブレーカの使用
活動詳細	超低騒音仕様SS-BOXは、油圧ブレーカ自体に遮音・防音・防振効果を持たせたことで、作業現場の騒音問題や周辺環境、労働環境問題の改善等に対応でき、騒音環境負荷の低減に貢献できた。





活動内容	国道沿いの清掃活動
活動詳細	道路沿いの清掃作業を行った。その結果、道路が美化され、地域の環境向上に貢献できた。





活動内容	国道沿いのごみ収集活動
	道路沿いの空き缶・ペットボトル、落ち葉収集等のゴミ収集作業を行った。その結果、道路が 美化され、地域の環境向上に貢献できた。



